



2022年（令和4年）
8月号（No. 927）

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

アラスカ・ハンター北壁 ムーンフラワーバットレス登攀

吉田一貴

アラスカ・デナリ国立公園にあるハンター北壁は、南東フォーク・カヒルトナ氷河のLPのすぐ近くにそびえる、アルパイン・クライマー垂涎の舞台。その初登ルートである「ムーンフラワーバットレス」は、氷雪壁とミックスが交互に3つ出てくる標高差1200mの壁で、この春、3人の若者がこの難ルートに挑んだ。

はじめに

大学で山を始めた私は登山にすっかり熱中し、中央大学山岳部で現役4年間を終えた後も、自分なりに山を続けてきた。特にアルパイン・クライミングに心惹かれ、世界の困難な壁を登ることを夢見て日本で経験を積み重ねた。そのうちに憧れていた壁を登攀対象として現実的に見られるようになり始め、いよいよ実際に海外の壁に挑

戦したいと思うようになった。

なかでもアラスカは憧れの山域だった。特にハンター北壁は、その見た目と難易度から惹き付けられるものがあつた。セスナを降りて2時間もかからずに取り付けるといふ、短いアプローチも魅力的だ。私は日本山岳会学生部の後輩で、東海大山岳部OBの西田由宇をアラスカに誘った。2人で計画していたが、私の同期で早稲田大学山



南東フォーク・カヒルトナ氷河BCから見たハンター北壁
(撮影＝鈴木)

岳部OBである鈴木雄大も参加することになった。隊名は「2022ハンター北壁登山隊」とした。

偵察と二度の敗退

4月23日に入山し、翌24日には早速、偵察した。見た目にはまず

目次

アラスカ・ハンター北壁 ムーンフラワーバットレス登攀	1
山岳図書を所蔵する長野県内の 図書館・博物館を巡る	4
衝撃的だったふたりの死	6
千葉支部・房総Baseの一年	8
連載■ご当地アルプス登山案内	
15 焼津アルプス	9
16 湖西アルプス	10
東西南北	12
支部だより 北九州支部	14
図書紹介	14
会務報告	16
ルーム日誌	17
会員異動	17
新入会員	17
INFORMATION	18
編集後記	19

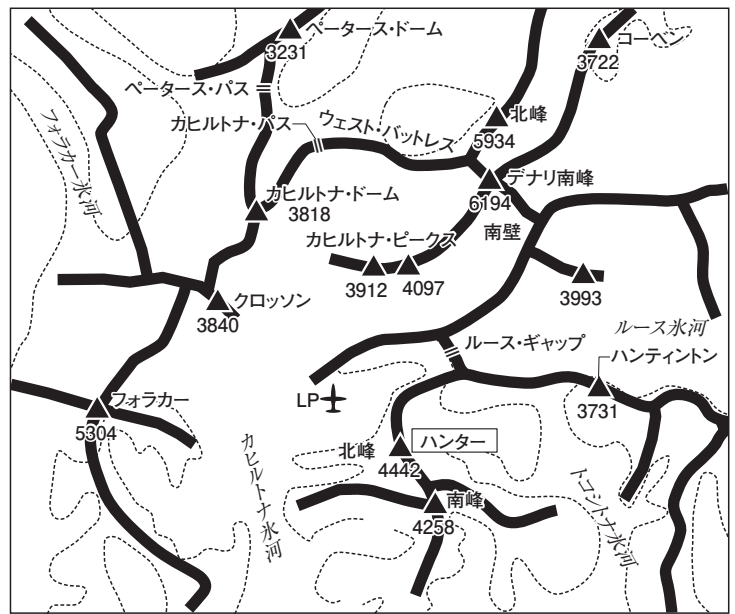
▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10～20時
水・金 13～20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10～18時

まず氷もあり、登れそうに見えたので、当初の予定どおりまずはこの壁の初登ルートである「ムーンフラワーバットレス」にトライすることを決めた。25日に早速、1回目のアタックを敢行。しかし、このトライではスピードが上がりず、ビバーク予定地までたどり着くことができず敗退となった。

レストを挟んで4月29日から2回目のアタックに出る。前回よりはかなりスピードが上がって、順調に高度を上げた。9ピッチ目の「プラウ」という難しいコーナー・クラック(M6～7)を越え順調に進んでいるように見えたが、10ピッチ目で氷の易しいはずの氷のガリーに氷がなく時間がかかってしまい、大ブレイキとなる。

本日2つ目の核心となる14ピッ

チ目の「タマラトラバース」と呼ばれるピッチは、悪いトラバースが40m近く続く恐ろしいピッチで、ここでも時間がかかってしまう。残り3ピッチでビバーク予定地に着くのだが、ここまですっかり消耗してしまい、登攀を継続することができず座位でのビバークを強いられたい。一層ぐらゐの狭いスペースで厳しい一晚を過ごし身も心もすり減った僕は翌日、登攀を継



続することはできず、少し登って敗退を決めた。思いのほか氷が少なく、我々にとつては厳しいコンディションだったのので、3回目のトライを敢行するかどうするか、BCで話し合った。ルートを変えるという選択肢もあったが、やはり諦めきれず、もう一度トライすることにした。

3度目の正直でほぼ完登

〈5月5日〉

もう3回目になる下部はさすがに順調に進み、「プラウ」下までで11時30分とかなり良いペース。前回フリーで突破した「プラウ」も、今回はフリーにこだわらずにエイド混じりで進む。前回敗退の原因となった氷のセクションと「タマラトラバース」は相変わらず悪いが、前回よりかなりスムーズに越

える。余裕でビバーク予定地の第1バンドまで到達できると踏んでいたが、なんだかんだで22時を過ぎる。それでもここまで来れた安心感で、気持ちは軽かった。

削り出したテラスに690gの軽量テントを張って潜り込むと、信じられないくらい暖かく、思わず声が出た。これだけでこの登攀の成功が約束されたような気持ちだ。決して広いとは言えないが、前回のビバークに比べれば快適そのもの。横になるころには、昨日朝から25時間が経過していた。

〈5月6日〉

第1バンドから易しい2ピッチの後、「シャフト」と名付けられた垂直の氷のセクションが130m続く。そこを抜けると第2バンド。その後はエイドが1ピッチ出てくる以外は、第3バンドまで易しい氷が続く。ピッチ数からしても、今日は第3バンドまで行きたい。寝たのが遅かったので起きるのも出発も遅く、10時半にスタート。ルート・ファインディングとロープの流れに苦労しながらも、なんとか「シャフト」の入り口へ到達。氷があるかどうか心配したが「シャフト」はなんとかつながって



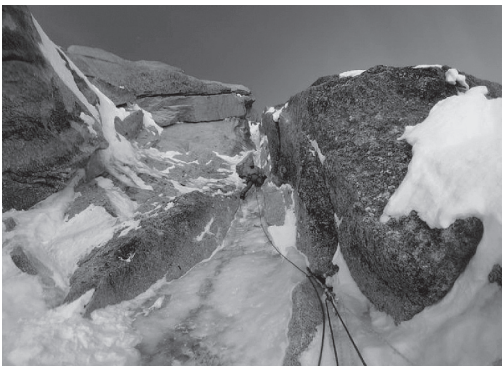
9ピッチ目の「プラウ」のコーナー・クラックをリードする鈴木(撮影=西田)

いるように見える。このピッチは吉田が担当。出だしの垂直部をリズム良く越え、氷を順調に登れた。しかし、抜け口のハンゲ部分に氷がなく、行き詰まってしまった。なんとかフリー突破を試みるが、アックスを引っ掛ける手掛かりもなく、プロテクションも悪いエイドできるような弱点もなく、散々粘った挙句どうしようもなくなって鈴木とリード交代。正直これはもう敗退だ、と思った。しかし、鈴木は少しラインを変えて、際どいエイドでなんとかこの20ピッチ目を突破。結局、このピッチだけで3時間40分を費やしてしまった。このピッチでのタイ

ムロスが響き、この日は第2バンドまでしか進めず。もっと進みたかったが仕方なく、ここでビバークすることにした。雪の小尾根を削ると、昨日よりも良いテラスを造り出すことができた。

〔5月7日〕

今日はアタック装備でバットレスの頭を目指す。食料は今日の夜分までしかない。それ以降はスープロと、予備食として持参したレーション1日分のみ。今ここに居る時点で明日に食い込むことは間違いないが、それでも行ける所まで行くしかない。アルパイン・クライマーがこの壁で頑張らずして、いつ頑張るといふのか。



20ピッチ目の「シャフト」に取り付く吉田(撮影=鈴木)

疲れはあるものの、前半はまずまずのスピードで進んだ、懸案の26ピッチ目のエイド・セクションは鈴木がスムーズに突破してくれた。その後はひたすら易しい氷が続いた。易しいとはいえ全体的に氷が硬くて、スピードは意外と上がらず、腕とふくらはぎがどんどん重たくなっていく。

ようやくたどり着いた核心である32ピッチ目は、実質、最後の難しいクライミングとなる。鈴木が最後の力を振り絞るように渾身のクライミングでこのピッチを突破し、最後の氷雪壁に飛び出した。実質のクライミングはここで終了だが、バットレスの頭まではまだ200〜300mほど易しい氷雪壁が続いている。すでに時刻は22時。この先も登り続けたかったが、食料のことを考えるとこれ以上登ることは厳しいだろう。タイムアップで、ここが終了点となった。

ここまで登って降りるパーティもいるようだが、「完登」というにはちよつと中途半端であることは否めない。しかし僕は、この条件下で全力を尽くしてここまで来られたことに、とても満足していた。このときの充実感は、言葉に

できないほど素晴らしいものだった。太陽があまり当たらない北壁に西陽が差し込んでいて、アラスカの刺すような冷たい空気が、ほんの少し和らいだような気がした。

まだまだ長い下降が残っていて、そう長く感慨に浸っていられるわけもなく、僕はそそくさと下降を始めた。降り始めてすぐに暗くなって、ヘッドライトを点けた。そのうち雪がちらつき始め、その雪は段々と激しくなった。全ての衣類を着込んだにもかかわらず、ずっと寒さで震えていた。凍った環付カラビナとかじかむ指先のせいで下降は捗らず、パートナーたちを待つ時間は永遠に感じられた。夜通し下降を続け、ようやく第2バンドのデポ地点に着いたのは翌朝の4時。あたりはすっかり明るくなっていた。

〔5月8日〕

下降を続けるには疲れ過ぎていて、一昨日削った第2バンドのテラスにテントを張って休むことにした。お湯を沸かしレーションをかじった後、少しだけ眠った。

2時間弱の仮眠の後、下降を再開する。雪は一時やんで日差しも出て、少し穏やかな雰囲気だった。

細かいミスやトラブルはありつつも、どうにか降り切ることができた。ユマリーングを繰り返したロープはダメージが大きく、擦り切れそうで最後の方は怖い思いをした。終了点での様々な感情はどうに吹き飛んでいて、生きているという安堵感でいっぱいだった。視界のなくなった氷河のトレースを頼りに歩いて、なんとかベースに帰ることができた。

片付けもそこに食事にありつく。疲労で忘れていた食欲が、肉を焼く匂いと視覚に刺激されて蘇り、食べるように食べた。腹を満たすと鉛のような体を引きずってなんとかシユラフに潜り込み、翌日の昼まで眠りこけた。

遠征を終えて

憧れのハンター北壁を登ることができて、とても満足しているけれど、反省点もたくさんあった。そして、まだまだ自分たちには伸び代があると思えた。当初は遠征それ自体に目的があったが、ハンター北壁を終えた今は、この遠征がその先の目標に向けた新たな一歩になる、そんな予感がしている。

(中央大学山岳部OB)

REPORT

山岳図書を所蔵する長野県内の
図書館・博物館を巡る

7月8日(金)から9日(土)の2日間

にわたり、図書委員会、資料映像委員会、立山カルデラ砂防博物館の有志15名で、日本有数の山岳図書を所蔵する信州大学附属図書館中央図書館、県立長野図書館、市立大町山岳博物館を見学した。本会にも1万5000冊の山岳図書を所蔵する図書室があるが、長い歴史の中で手狭となり、コロナ禍もあって利用者数の少ない状況が続いている。そのため、山岳図書



皆が熱心に見入った小谷コレクションの貴重書ケース

図書委員会 井上優美

を有する代表的な図書館を訪れ、その仕組みを学び、今後の図書室運営に活かしていくことが今回の訪問の主な目的である。3館とも職員の方に丁寧な解説をいただきながら館内を見学し、充実した図書館探訪となった。

信州大学附属図書館中央図書館

8日(金)は、松本市にある信州大学附属図書館中央図書館を訪問した。同館は、8000冊の山岳図書コレクションである「小谷コレクション」を所蔵している。小島副館長からコレクションの経緯と代表的な貴重書を紹介いただいた後、館内見学をした。

小谷隆一氏は、京都出身で旧制松本高等学校に入学、北杜夫著『白きたおやかな峰』の小滝隊長のモデルとなった人物で、日本有数の山岳書コレクターである。「小谷コレクション」は、山岳図書研究で知られる小林義正氏の蔵書を母体として、小谷氏が生涯を懸けて収

集したもので、詳細については氏の著書『山なみ帖その後』(茗溪堂、2008年)に詳しい。

2階の特別貴重室に「小谷コレクション」は所蔵されている。入ってすぐの所に革装のシュラギントワイト図版が入った木箱が置かれ、その隣のガラスケースには代表的な貴重書が収められている。ウェストンの自筆サイン本や、彩色が美しく残る鈴木牧之『秋山記行』など、実際に手に取って見ることができた。一般山岳図書のほか特装本、和書、洋書、雑誌が広いスペースにゆつたりと並ぶ。会報は英国山岳会のThe Alpine Journalから松本高等学校山岳部報「わらぢ」に至るまで、創刊号から揃っている。保存環境が整っていて、コレクションの状態が非常に良いのも特徴である。保存だけではなく、館内展示や外部の博物館などと連携して、利用公開も積極的に行なっている。

館内は、学生が学びやすいよう様々な工夫がされていた。1階には飲食・会話可能な自由学習スペースがあり、3階に向かうにつれ静謐な閲覧スペースとなっている。2階にはシラバス図書、教員推薦



県立長野図書館では、森館長らからブリーフィングを受ける

図書など学生の利用頻度の高い図書が配架されている。ピアサポート担当の学生が常駐して学習相談に応じるなど、学習支援態勢が充実している。

その日は旧制高等学校記念館も見学して美ヶ原温泉に宿泊し、夜は楽しい懇親会となった。

県立長野図書館

9日(土)は、長野市にある県立長野図書館を訪問した。長野県随一の蔵書数を誇る公共図書館である。近年、長野県の「共知・共創」のコンセプトを実現する施設としてリニューアルし、アイデア溢れる様々な取り組みを行なっている。

森館長はじめ職員の方々から概要説明と質問に答えていただいた後、館内を見学した。

モニターを使い、信州・知のポータルサイト「デジタル信州ナレッジスクエア」をご紹介いただいた。県内外の図書館・博物館・美術館のデータベースから信州に関する資料のメタデータを横断検索できる「信州サーチ」など5つのコンテンツがある。様々な形で図書館からの情報発信が積極的に行なわれており、情報基盤の構築に当たって外部機関と連携することにより、利便性の高いコンテンツが実現されている。

図書館は3階建てで、1階は児童図書室、2階は一般図書室、3階はコミュニケーション・エリア。3階の「信州・学び創造ラボ」には



大町山岳博物館の山岳図書資料館の書架

3つのゾーンがあり、知を集め、人となりが、アイデアを実行していける空間作りがされている。「信州情報探索ゾーン」には県立図書館の歴史が詰まった六角形書架やくつろげるスペース、自由に書き込める黒板など。[Co-learningゾーン]にはワークショップ用スペース、ミーティング・ブースに簡易キッチン。「モノコトベース」には、3Dプリンターや工具類を完備したラボがある。この魅力的な空間は、構想段階から市民や信州大学工学部建築学科とワークショップでの議論を重ね、実現したものである。

2階の一般図書室でも、蔵書を活かす様々な工夫が見られた。色分けによって体系化された、約8000冊の岩波文庫が壁一面に並び、岩波文庫コレクションの展示は、圧巻である。図書館の一区画は6層の広い閉架書庫となっている。利用者目線で古い図書を書庫に入れることで開架書庫の鮮度を保ち、古い資料も廃棄せず書庫に残していくことでその分

野の歴史が分かれるという。増加し続ける蔵書の管理について、特に寄贈図書の扱いについては、どのような寄贈資料を受け入れしているか明確な基準を設けており、ホームページ上で公開している。

市立大町山岳博物館

続いて、市立大町山岳博物館を訪問した。大町市街と後立山連峰を見渡せる展望の良い立地にあり、創立70周年を迎えた山岳博物館である。山岳図書資料館と博物館展示、ライチョウのいる付属園を清水副館長に解説していただきながら見学した。

山岳図書資料館は、博物館の一角にある独立した2階建ての収蔵庫である。山岳資料を収集保管することにより、山岳文化の継承と普及を図ることを目的として2012年に開館している。山岳図書資料は3万9000点に及び、日本有数の山岳図書を所蔵している。蔵書は人文科学系の寄贈図書が主体である。開架書庫に1階は寄贈者ごと、2階は一部分類ごとに配架されている。空調は24時間管理され、採光も考慮されて保管環境が整えられている。入り口すぐの

所に閲覧用機と検索用端末が備え付けられている。一般公開されているため、申込みをすれば誰でも利用可能で、大正期の貴重書を除き貸出も可。職員に出納してもらうことなく、まとまった量の山岳図書を自由に閲覧できる。コレクション主体の保管であるため、中には重複する本もあるが、ホームページで目録を見ることができ、利用案内も分かりやすく、一般の利用者にとって利用しやすい施設と感じた。

今回の図書館巡りを通じて、「図書館」という場には多くの可能性があることを知った。会員の方々や一般利用者にとって使いやすいよう配架を工夫するだけではなく、ホームページ上での利用案内やデータベースの整備、企画展示などにおいて情報を自ら発信していくこと、外部機関との連携を進めていくことの重要性を学んだ。今後の図書室運営に活かしていきたいら、と考えている。

図書館巡りの企画は、コロナ禍のため3年越しの実現となった。見学を受け入れてくださった各館関係者の皆様、企画運営の方々に心より感謝申し上げます。

RECOLLECTION

衝撃的だったふたりの死

近藤 緑

残雪の穂高で知った悲報

「山」5月号ほど心を揺さぶられた会報はありません。一つは小泉弘氏が書かれた「灯台下暗し、四十余年・品川宿に眠るある女性登山家」です。

関田美智子さんは、ほかの女性登山家とは違って、ごく自然な態度で、私のようなド素人の名ばかり会員とも付き合ってくださいました。お仕事が都立心身障害者福祉センターの聴能士さんだったとは、初めて知りました。



関田さんが登ったアンデスのワイナボトシ（「エーデルワイスクラブ会報」32号より）

彼女が遭難した1976年5月3日、同じ道に登る山本良三さんをリーダーにしたグループの後から、私も夫婦もゆつくり登って行きました。のどかな初夏の山でした。残雪は脇に寄せられ、歩く道にはほとんどありませんでした。

その道で引き上げてくる救助隊員らに会い「女性が滑落した。セキタミチコだ」と聞いて、一同仰天。「まさか彼女がこんな所で……」。死神に取り付かれたとしか思えません。さらに「もう死んでいるから、遺体は下に降ろす」という話に、山本さんは「行こう」と歩き出しました。後で彼から聞いた話では、都合で縦走に参加できない関田さんから「先に下るけど、現地で見送らせて」と言われて、「そんな……いいですよ、日本の山くらいで」と言うと、淋しそうに笑ったそうです。

登り優先の登山道だから、やさしい彼女は掻き寄せた雪の中まで踏み込んで、雪と一緒に落ちたのでしょう。図書委員の仲間が近く

にいたのに、たった独りで運ばれていった関田さんと思うと、今も心が痛みます。せめて凍った手足をさすってあげたかった、と。

小泉弘様、毎年のご回向にお礼申し上げます。

高校時代からの奥井家との縁

もう一篇は「追悼」欄に浅野勝己・茨城支部長が執筆された同支部副支部長・奥井清さんの死に関する文章です。

奥井夫人の登美子さんと私とは、高校時代からの親友でした。私が疎開先から帰って転校した小松川高校で彼女と出会ったのです。登美子さんの実家である加藤家も空襲で被災して、運良く焼け残った高校の近くの家に住んでいました。帰京後間もなく母を亡くした私は、大家族で住む加藤家の団欒の中に加えてもらうことで、幸せな時間を持つことができました。

私が先に所帯を持ち、東京薬科大を卒業した登美子さんは、清さんの長兄・誠一氏の仲立ちでお見合いをしました。その後、弾んだ

声で「まるでインドの貴公子のような人なの」と報告があったのを覚えています。背が高くて日焼け

した端正な風貌に、一目惚れしたのです。

結婚式は、超モダンなお姑さんの弾くオルガンで新郎新婦が登場するという趣向に感動しました。奥井家は英才の家系で、清さんの兄2人は家を出て大学教授、幼少のころ虚弱だった三男の清さんが老舗奥井薬局を継ぐべき人とされていました。

明治薬科大から京大大学院に進んだ清さんが家業を継がず、中外製薬研究所長になるまで勤務を続けられたのは、薬局に登美子さんを迎えたお陰でした。学究肌で口の重い清さんよりも、下町でのびのび育った登美子さんの方が、街のクスリ屋さんには向いていたと思います。交通の便の良い場所に新築移転した奥井薬局の建物は「童話館」と名付けられ、図書や絵本を揃えた子ども文庫、娘の陽子さんが焼くホットケーキのお店もありました。読書や軽食がとれる談話室が、そのまま「奥井サロン」という名の、茨城支部のたまり場になりました。

支部で催しのあった後の二次会は、必ず奥井薬局でした。会費は街の寿司屋からとる一人前の寿司

代だけ。後の酒類や和・洋・中華の大皿は、登美子さんら女性群の差し入れでした。私も何度か参加して、カンカンガクガクの議論を聞くうちに、眠っていた脳細胞が蘇るのを感じました。

また、会報の文中に、「京都大学学士山岳会(AACK)に入会を希望したがかなわず」とある点を、静岡大山岳部出身で同会会員の山本良三さんに聞いたところ、「奥井さんには海外登山の経験がなかったから」という返事でした。同じ中外製薬社員でありながら自由に海外遠征をした良三さんの背後に、どれだけ先輩の奥井清さんの温情があったことか……。



いつも賑やかだった奥井サロン。中央、テーブルの角で腕組みをしているのが奥井清会員

やがて退社して様々な自然保護活動を展開する良三さんですが、清さんとは生涯の付き合いで、障害者となった清さんを見舞うため何度も土浦を訪ねていました。

夫人は市民運動家としても活躍

新婚時代は順風満帆の奥井家でしたが、嫁として姑を介護し、その死後はウツ状態となった舅の世話をする生活になると、登美子さんも仕事との両立に悩みます。清さんは登美子さんをかばって、朝早く起きて父親のおムツ(当時は布製)を竿5本分干してから、6時発の電車で東京へ通勤したそうです。

その研究所でも、「運動しなくては体がなまってしまう」と昼休みにはマラソンを欠かさない清さんでした。76歳のとき、炎天下の御茶ノ水で意識不明となり、救急車で東京医科歯科大病院へ運ばれ、緊急手術するための同意書にサインが必要でと言われても、土浦からでは間に合いません。そのとき駆け付けてサインをしたのは、白山に住む登美子さんの実弟、加藤尚武さんでした。元ゼンガクレンで、60年安保の立て役者。今は

医学・環境倫理学者として知られる京大名誉教授も、幼なじみからすれば、通称「タケちゃん」です。登美子さんと尚武さんは、お互いに認め合う仲の良い姉弟で、彼女が市民運動家として活動するようになるのは、自然な成り行きでした。いや、実践家としてはタケちゃん以上かもしれません。その一つが霞ヶ浦の水問題です。

霞ヶ浦は浅い湖で、周辺からの汚水が流れ込んで最悪の汚染度。しかも、それが土浦市の水道の源泉だったのです。そこに着目した登美子さんは、文庫活動などで仲良くしていた子供たちに水質検査の方法を教え、分析結果を記録させて市に提出しました。その一方で、「こんな水で溶いたミルクを赤ん坊に飲ませてよいものか」というキャンペーンが多くの市民の共感を呼び、現在、市では筑波山から流れ落ちる大小の河川を有効利用した水道が、各家庭に敷設されています。

話は戻りますが、ウツ状態のまま晩年を過ごした父親を見て、「大動脈解離していて、大手術は成功したもののいつ何があってもおかしくない」と宣告されている清

さんは「ピンピンコロリ、バタンキュー」の死を望むようになり、「登美子より先に死にたい」が口癖になりました。コロナ禍で家族とも会えないまま死ぬのもいや。念願通り我が家で死ぬことができた清さんは「うまくいった」と喜び、「登美子、ありがとう」と言って召天されたに違いありません。天の一角から、「仏の御手(みで)に抱かれて……」と琵琶湖周航の歌のメロディが聞こえてきます。眠れ霞ヶ浦の貴公子、安らかに。

そして、自由な発言の中から秀逸な結論を出していく、学識豊かな清さんを囲む奥井サロンこそ、AACKのアカデミックな精神を継承したものだった、と私は信じています。

浅野支部長には、学都つくばにふさわしい支部運営を続けてくださるよう祈念いたします。

そして登美子さん、これからは地域医療のために頑張ってください。医療現場を綴ったエッセイも楽しみにしています。楽しく読めて勉強になる、文筆の才も加藤家のお家芸の一つで、ご主人の死も、早くも題材になっています。

(緑葉会会員)

CLUB LODGE

千葉支部・房総Baseの一年

千葉支部長 松田宏也

思えば昨年1月、南房総の名山である富山(349m)の頂上から眺めた里山風景に心動かされ、「このあたりに山小屋があればなあ……」とつぶやいたことが、そもそもの始まりだった。山小屋なんてのは夢のまた夢と思っていたが、知り合いの知り合いの知り合いから、鋸南町の里山に空き家があるとの話が舞い込むのに、そう時間はかからなかった。少し高台にあって眺望が良い。築50年は経っているが屋根は10年前に張り替えた

ばかりで、畳もきれいだ。庭が広く、昭和の時代の間取りがなんとも懐かしい。大家さんのご厚意で家賃は激安、即決しゴールデンウィークには大掃除が始まった。

「房総Base」と名付けて1年。月に2度は片道100kmを通いながら清掃と生活道具の揃え、村人への挨拶、客人の案内とこなしていくうちにBaseの宣伝も行き届き、このコロナ禍のなかでも延べで130人が宿泊してくれた。

人の出入りとともに季節も巡る。夏、緑生い茂る里山は、下界が猛暑でも風抜けが良いので日陰はひんやり涼しいが、1週間で周囲を覆い尽くす雑草のたくましさととの闘いには、たっぷり汗を流す羽目になる。お盆を過ぎると、里山の稲穂が頭を垂れる。丁寧に丹精を込めて手入れされた田んぼを見るたびに、これこそが日本の美しい田園風景だ、と見とれてしまった。冬、雪が降ることはないが、隙間風でとにかく冷える。夜はストーブを点けたついでに鍋料理とな

る。村のおばあちゃんが、畑で採れた野菜を差し入れてくれる。田舎ならではの、近所付き合いの優しさがうれしい。一気に葉っぱが落ちて見通しが良くなると、星も輝き始める。いつかここで星の観察会を開催したいと思う。年が明けると鋸南町のスイセン・ロードには多くの観光客が訪れ、登山シーズンを迎える。3月初旬にはピンクの河津桜が満開となり、昼間の窓越しに花見ができるという贅沢な日が楽しめる。

春夏秋冬を感じた一年。ここにBaseを作って本当に良かったとしみじみ思う。心配していた資金繰りも千葉支部有志の方々のお陰で当面は大丈夫なようだ。冷蔵庫、テーブル、電子レンジ、ストーブ、布団、食器類に立派なオーディオ・セットまでも寄贈いただき、今では臨場感あふれる音に包まれながら一杯傾けるのが楽しみとなった。さて、このステキな隠れ家をもっと楽しむためにはどうしようか？ 低山しかない千葉県だが、他県にはない低山王国の魅力があることを多くの方にぜひ知って欲しい。複雑に縦横無尽に走る房総の尾根を正確に歩くのは、至難



満開の河津桜のそばで、ときには畑作りに精を出すことも

の業である。なめてはいけない。山登りに必要な知識と技術を磨くには、案外と千葉の山は最適であるかもしれない。展望台に出れば、山並みと東京湾の向こうに富士山がひょっこりと顔を出す。山から下りたら里山のBaseで、気の置けない仲間と一晩じっくりと語り合い、新たな物語が生まれる場、それがこのBaseの持つ魅力であるのかもしれない。

今後も多くの方のご利用をお待ちしています。混沌とした時代だからこそ、シンプルな交流を大事にしていきたいと思います。利用申込みは左記支部メールまで…

✉ cib@jac.or.jp

焼津アルプス

「焼津アルプス」は静岡市と焼津市をまたぐ位置にあり、高草山や満観峰、花沢山などが連なる山域を指す。最高峰の高草山が標高503m（東峰）という低山地帯で、ハイキング・コースも豊富である。構成するそれぞれの山だけを巡るコースもあるが、今回は「焼津アルプス三山」を周回するコースを紹介する。

【コースガイド】

花沢の里臨時駐車場を起点とし



静岡支部 長野和義

て、時計回りに周回する。ここにはトイレも完備しているので済ませておく。南の方へ10分ほど舗装道路を歩いていくと、花沢城跡がある。時間があれば立ち寄って欲しい。高草山へは多くのコースが紹介されているが、今日は石脇コースから坂本コースに合流して登る。左手が開けてくると遠くに花沢山や松風閣・焼津グランドホテルなどが望まれる。

高草山に通じる道は、何箇所も農道で分断されているが、要所には道路標識が設置してあるので迷う心配はない。山頂にある無線中継所を目指して登っていく。コースは整備が行き届いている。坂本AコースとBコースの分岐点はビューポイントで、振り返れば眼下に焼津港や志太平洋が望まれる。満観峰分岐を直進すると、高草山大権現を経由して双耳

峰の高草山東峰(503m)に到着する。ここにはベンチやテーブルが設置されており、ゆっくりと休憩できる。山頂からは富士山や日本平一帯が見渡せる。さらに10分ほど歩いた西峰には、ソロモン群島戦没者の慰霊碑がある。三角点はここにある。

高草山は、クスマレとエイザンスマレが有名。したがって、目的が花ならば3月中旬から4月上旬が、また、野鳥の観察をするなら5月のバードウィークのころに訪れるのが良いだろう。

さて、次はいったん分岐まで戻り、2つ目のピーク、満観峰を目指す。展望はないが、気持ちの良い森の中をひたすら下っていく。途中、道路左脇に手製の「大べら山」の札が建てられている。傾斜が緩やかになるとやがて鞍掛峠に出る。この峠は花沢の里から最短で満観峰に登れる中継点にもなっている。

ベンチでひと休みしたら、良く整備された歩きやすい道を、少しずつ高度を上げていく。右斜面で土砂崩れの危険がある場所には注意して、最後に急坂を登るとそこが満観峰(470m)の山頂だ。目の

前にドーンと富士山がそびえている。静岡市街地や日本平も指呼の間にある。東屋やベンチなどもあるので、ゆっくり休養しよう。ここは富士山が雪化粧をする冬に訪れるのが最高だ。

満観峰からは3つ目のピーク、花沢山に向かう。このコースは東海自然歩道の静岡バイパスとなっている。歩く人が少なく、放棄された茶畑が部分的にヤブになっているが、静かなトレイルである。高草山に続く本日2つ目の三角点は四等三角点(434m)。間もなく静岡方面が望める開けた場所(「家康ベンチ」という)に出る。これから下りだが、2つ目の峠が日本坂



高草山から俯瞰した焼津港と志太平洋



満観峰から見た富士山と静岡市街

峠である。そして、花沢山への最後の登りが待っている。急坂を登り切ると花沢山(449m)だが、眺望はない。ベンチのある所で休憩。この三角点は樹の根元にあつて見逃しやすい。

花沢の里への下りの道は、入り乱れた樹根とコンクリート製丸太で組まれた階段のため、細心の注意が必要。やがて「かんぼ」への道と分かれ、右折し沢沿いの道を下る。クマガイソウ保護区を過ぎると舗装道路になる。水車小屋まで来ると左折して、臨時駐車場に戻ってくる。

【コースタイム】 花沢の里臨時駐車場(30分) 高草山石脇入り口バス

停(1時間10分) 高草山山頂(40分) 鞍掛峠(30分) 満観峰(50分) 日本坂峠(40分) 花沢山山頂(1時間) 花沢の里臨時駐車場 《参考データ》 歩行距離11km

【交通アクセス】 今回はマイカーを利用。公共交通機関の場合は、JR焼津駅より高草山石脇入り口まで自主運行バスで12分

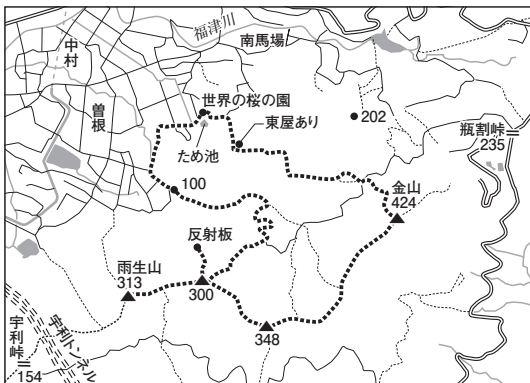
【山行メモ】 ①焼津の山麓は史跡の宝庫。花沢は山の谷地にある30戸ほどの山村集落。街道沿いに石垣と板張りの建物が連なり、川や山林など周囲の自然環境と一体となつて、独自の歴史的景観を作り出している。建物は江戸時代以来の伝統を保ちながら、明治後半以降のミカン栽培などの盛行とともに増改築されてきた。この歴史的景観が評価され、平成26年に静岡県で初めて国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。②焼津は魚の町、海の恵みがいっぱい。③日帰り入浴施設「やいづ黒潮温泉」がある。

【参考文献・情報】 分県登山ガイド『静岡県の山』(加田勝利著、山と溪谷社) 「焼津ハイキングマップ」 静岡県焼津市によろこそ! (yazu.gr.jp)

連載■ご当地アルプス登山案内16 湖西アルプス

浜名湖の西の静岡県と愛知県にまたがる県境稜線を「八名弓張山地」と言う。湖西市から三ヶ日町にかけて連なる山々の総称である。「湖西」の読み方は、琵琶湖の西は「こせい」だが、浜名湖の西は「こさい」である。

愛知県側からは「豊橋自然歩道」として整備されてきた。主に神石山、坊ヶ峰と300mから400m級の低山の連なりである。稜線や山頂から東には、浜名湖や遠く



東海支部 西山秀夫

に富士山や南アルプスも望まれる。西には奥三河の山々に続く本宮山、豊橋平野や三河湾が見える。眺望が良いハイキング・コースとして人気がある。

本稿では中間地点にある、蛇紋岩の地質で知られる雨生山(313m)と金山(424m)を案内しよう。花が目当てなら開花期、展望が目当てなら晩秋から翌年早春が適期である。

【コースガイド】

スタートは愛知県新城市曽根の登山口「世界の桜の園」から。登山道は夏は草や小笹に覆われている。いくつもの枝道があるが皆ヤブっぱいから、なるたけお奨めの道を歩く。左からの杉木立の中の道に合流する。

登山道の所々に蛇紋岩の露頭が見られる。蛇紋岩中には植物の成長を阻害するマグネシウムが多く入っているため、蛇紋岩地帯の植生はほかとは違う。不思議なことに松の木立になった。灌木の密度



300mピークから見た秀麗な姿の吉祥山

も少ない。つまり蛇紋岩の地質ゆえに地味がやせているのだろう。やがて東屋に着く。ここからは西方に吉祥山が美しくそびえている。出発してすぐだが、見晴らしを楽しみたい所だ。蛇紋岩は植物の育ちが悪いので逆にこうした庭園のような雰囲気を作る。

東屋を辞して登山道に戻る。確かに、たくさんの種類の桜の木を世界中から集めて植樹したのでろう。この一角を過ぎると杉の植林帯に突入して、一気に薄暗い山路になる。緩やかだが長々と尾根を登ると林道に出る。すぐに山路に入る。やや急坂になるが県境稜線に着くと「左瓶割峠」の案内板があ

る。右折するとすぐに金山山頂である。

隣に電波施設があるが、三角点からの展望はない。樹林の中を下ると見晴らしのあるピークに着く。宇利峠への道標もある。地形図の348mである。ここからは樹木の高さが低くなり、小枝が行く手を邪魔する。やがて右への下山路の分岐も出てくると、すぐに300mの等高線のあるピークに達する。

ここも蛇紋岩のためか樹木は皆低く、見晴らしが良い。吉祥山の姿がなんとも言えないくらい素敵である。吉祥天女とは「吉祥とは繁栄・幸運を意味し幸福・美・富を顕す神とされる。また、美女の代名詞として尊敬を集め」ている。

目を東に転じれば、眼下には浜名湖が見える。厳密には猪鼻湖である。見える町は三ヶ日町だ。三ヶ日JCTがあり、新東名につながる。晴れておれば、冬なら富士山が見えるだろう。近くに見える姿の良い山が雨生山だ。再び登山道を歩いて登頂する。三角点はない。地形図では円錐形の山で、ほかからは良い姿に見えるが展望は東のみある。7月には秋の七草の

キキョウが咲いている。

ピークから真北の尾根の裸地に電波反射板が見える。地形図には破線路があるが、電波反射板以下は道の痕跡もない廃道だから下らないこと。反射板の所でコオニユリを見た。300ピークへ戻り、元の登山道を少し下って分岐を左折すると林道に下れる。登山口に戻るには林道が入り組んでいるからGPSで現在地を確認しながら下りたい。

【コースタイム】世界の桜の園登山口(1時間10分) 金山(50分) 雨生山(15分) 300mピークから電波反射板往復(20分) 300mピーク(1時間5分) 世界の桜の園登山口

【入・下山口へのアクセス】マイカーの場合、東名高速道路・豊川ICを出たら県道380、381号を東名の北側を走る。県道81号の交差点で左折。新城市富岡の交差点を右折し国道301号へ。すぐに左折し、曾根から世界の桜の園登山口は、地形図では小さなため池の記号の北になる。5台は止められる。

【山麓の見どころ】①葦毛湿原は、愛知県豊橋市岩崎町にある湿原。



雨生山から見下ろした浜名湖北部の猪鼻湖(手前)

1992(平成4)年に愛知県の天然記念物に指定。2021(令和3)年に国の天然記念物として新たに指定。一等三角点の神石山と結んで歩かれている。②阿寺の七滝は、愛知県新城市の阿寺川にある滝。滝および周辺は国の名勝および天然記念物に指定されている。日本の滝百選の一つ。自然林内の礫岩の断層に懸かる7段の滝となっている。

【参考文献】田中澄江著『花の百名山』(文春文庫) 分県登山ガイド『愛知県の山』(山と溪谷社) ホームページ「豊橋市、湖西・新居観光協会 地図・概念図」三河富岡、三ヶ日

東西南北

N

S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします）

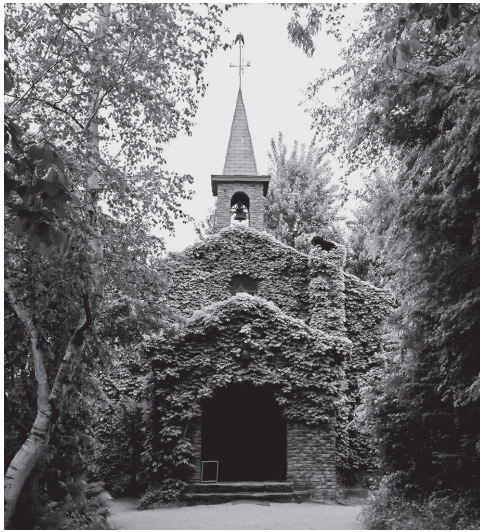
碌山美術館を次世代につなごう〈前編〉

古幡開太郎

JR大糸線・穂高駅から有明駅に向かう途中、車窓から北アルプスを背景に教会を思わせる建物が見える。碌山美術館だ。ここにはこの地で生まれ、「日本のロダン」と呼ばれる日本の近代彫刻の基礎

を創った碌山荻原守衛の全作品が展示されている。

この碌山美術館は、東京藝術大学石井鶴三教室助教授・笹村草草人（良紀）氏の指導により南安曇教育会（現・安曇野市教育会）の先生方が中心となり、碌山の彫刻および資料を保存し、その功績を顕彰しようと1953（昭和28）年「碌山研究委員会」を立ち上げ、活動を始めた。その活動は



碌山美術館本館全景

その後「財団法人碌山美術館設立委員会」に発展し、設立基金募集活動は長野県内ばかりでなく、全国に広がった。その結果、新宿中村屋、日銀総裁・渋沢敬三氏らの支援や、長野県内の学生たち29万9100余名から寄付が集まった。

美術館の設計は、碌山を精神面で支えたキリスト教や明治時代の建築様式、厳しい環境に耐えることなどを骨子として、早稲田大学工学部建築科教授・今井兼次氏に依頼した。厳しい経済条件下で施工を請け負った清水建設は、焼き損じたレンガを集めて建設。尖塔には石井鶴三教室助手の基俊太郎氏が制作した「フェニックス（不死鳥）」が東天を仰いでいる。今井兼次氏は、燕山荘・赤沼邸に泊まり、工事の現場指導に当たった。それまで碌山生家の荻原家「碌山館」にあった作品と資料が碌山美術館に移され、58（昭和33）年4月22日、碌山の命日に落成開館した。

こうした経緯で生まれた碌山美術館は、61（昭和36）年3月27日、明仁皇太子殿下（現・上皇陛下）ご夫妻の行幸啓があり、さらに65（昭和40）年には、NHK第1回「日曜美術館」で取り上げられ注目された。その後、アンノン族が挙つて訪れる人気の観光地となり、年間24万人が訪れた年もあったが、バブル崩壊の90年代後半から入館者が漸減し、新型コロナウイルス感染症に翻弄された現在は、年間3万人を切る厳しい状況にある。

さらに建設から64年を経たレンガ造りの碌山美術館本館は老朽化が著実に進んで内壁にはヒビが入り、特異な技術を使いコンクリートでつなぎ合わせたレンガ壁も浸食を受け、浸透した雨水により壁が脆くなり、早急に改修が必要となっている。美術館の改修計画を立てたが、厳しい財政状況の中ではその費用をまかなえないことが分かり、このたび碌山美術館を安曇野の資産として未来につなぐため、クラウドファンディングを募ることとなった。会報の紙面をお借りして、日本山岳会会員の皆様にご協力をお願いする次第である。

クラウドファンディングの募集期間は令和4年8月31日までと限られています。READYFOR碌山館」で検索してください。期限を過ぎた場合は、碌山美術館（0263-8212094）にお問合せください。多くの皆様にご協力をお願いいたします。次回後編は、碌山の芸術活動とその生涯。そして、碌山館クラウドファンディングの募集経過などをお伝えします。
（信濃支部会員、公益財団法人碌山美術館理事）

河野齡蔵の写真貼

牛丸工

河野齡蔵の写真貼を見せていただく機会があった。現代人にいきなり「河野齡蔵」と話し掛けても、どこのだれだか理解できる岳人は少ないであろうから、多少説明させていただく。

河野齡蔵は長野県松本市に生まれ、明治から昭和の始めにかけて山岳写真家、高山植物研究者、教育者などとして活躍し、日本山岳会員番号は96番、日本山岳会信濃支部の前身である信濃山岳会の設立のときの副会長を務めた人物だ。自宅は長野県松本市にあり、松本

サリン事件で有名になった河野義行さんのお宅でもある。河野齡蔵は4男3女に恵まれたが、男の子はいずれも幼少で亡くなり、後継男子がいなかったのちに義行さんが養子となった。

松本サリン事件の際、通報者の義行さんの家が家宅捜査され、大量の薬品が出てきたため「お前が犯人だ」とされてしまったが、この薬品は河野齡蔵が雷鳥などを剥製にするための薬品の小瓶で、半

世紀以上経っても多数残されて家の中にあつたのだった。

河野齡蔵は長野県内の学校で教えるために山の上で風景写真や高山植物の写真撮影を行ない学校の教材としていたので、主は教育者だ。日本山岳会発行初期の『山岳』に多くの原稿と写真を掲載し、高山植物に関する本を何冊か出版している。写真貼は22冊500枚ほどの写真があり、重複している写真も何枚もある。全部を詳しく見ることはできなかったが、ジャンルごとに整理されていた。大雑把に分類してみると、皇族方との登山、北アルプス、南アルプスの山々、樺太、高山植物、学校関係などだ。

すべて河野齡蔵撮影ではなく、他者が撮影したものもいくつかある。皇族登山関係では大正5年の東久邇宮殿下の槍ヶ岳登山、同じく大正6年の白馬岳登山、そして、朝香宮殿下の同9年の白馬岳、燕岳、常念岳、槍ヶ岳登山があり、これら皇族の撮影者は大町の写真家・手塚順一郎が撮影したものがほとんどで、東久邇宮殿下自ら撮影したものも数枚ある。3頭の黒牛が並んで写っていて絵葉書にも

なっている「上高地牧場」の写真は、昭和7年に発行された手塚順一郎の唯一の写真集『山の写真のうつし方』に掲載があった。また、大正3年1月4日に日本山岳会会員・八木是峰が撮影し、辻村伊助著『ハイランド』に掲載された、雪の中の嘉門次小屋の入り口に立つ嘉門次の写真もある。

“MHOKARI”の刻印がある写真が数枚あり、なぜ河野齡蔵の写真貼にあるのか不思議で、最初理解できなかった。槍ヶ岳山荘の経営者・穂苅三寿雄が撮影したものかなと、疑問に思っていた。しかし、それとは別に“LILY MAT-SUMOTO”、“NABERIN MAT-TUMOTO”、“CYAJIMA”などの刻印がいくつもあり、そこから推測することができた。LILYは松本城入り口付近に店があった百瀬藤雄経営のリリー写真館、NABERINとは松本の会社で今では医療機器卸販売をしているが、昭和のころまで写真機材関係の事業もしていた。

また、CYAJIMAとは信州伊那市に大正2年9月29日に創業した矢鳥写真館のことで、筆者の手持ちに河野齡蔵写真貼と同じ写真で

「日本中央アルプス 勒銘石 矢鳥写真館発行」という絵葉書があったため確証が持てたが、現在も同館は店名を代えて営業している。河野齡蔵は大正10年には飯田高等女学校に勤務しているので、周辺の山の写真の現像を近くにある矢鳥写真館に依頼し、刻印入りの写真を写真貼に貼り付けていたのである。

同様にMHOKARIは、穂苅三寿雄が松本市内に昭和5年ごろ開業したホカリ写真館であり、昭和6年に実家が新築され松本に戻った河野齡蔵が、これらをいづれもホカリ写真館に写真現像を依頼し、刻印が押されているものを写真貼に貼ったと考えられる。

高山植物の写真では「戦前の高山植物」の絵葉書のタイトルで、オークションに数種類が出品されているものも確認できる。河野齡蔵はガラス乾板で撮影しているので、写真は本来は白黒であるが、手彩色された高山植物の絵葉書もある。全部の写真を時間をかけて拝見したわけではないが、詳細な部分の説明は確信が持てないにせよ、概要だけは把握することができた。

支部

だより

北九州支部

ポレポレ山行

万年山とミヤマキリシマ

5月22日(木)、小倉駅北口KMMビル前に7時30分集合。バスの運転手さんは3年前、瀬沢山行のときにお世話になった堀内さんだった。道の駅「童話の里くす」でトイレ休憩後、登山口の吉武台牧場に10時15分到着した。

当日は万年山(1140m)の山開きで、駐車場はすでにすし詰め状態だ。登山口で記念のペナントをもらって10時15分に登山開始。山頂まで1・9kmの道のりだ。途中、万年山の珍しい二重メサ(四囲に幅広く岩壁を巡らし、その頂上部は広いテーブル状になっている)の地形説明を聞きながら30分ほど歩くと、鮮やかなピンク色に咲いた小さなミヤマキリシマを発見する。開けた牧草地の左手がミ

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとレポートします。



ミヤマキリシマ群落地での記念撮影 撮影＝縄田

ヤマキリシマのピンクの絨毯だ。残念ながら柵に囲まれていた。

11時30分、万年山に到着。山頂は大勢の登山者でいっぱい。10分ほど山頂を堪能して出発。12時35分、はなぐり岩到着。感動のミヤマキリシマの絨毯! この先のお花畑で、花に囲まれての優雅な昼食。青空とともに、赤や鮮やかなピンクから淡いピンクのグラデ

ーションの花を堪能した。13時45分にお花畑を出発。はなぐり分岐を経て吉武台牧場に帰り、18時ごろ小倉駅北口KMMビル前に帰着した。この日の歩数は2万7163歩。

りの皆さんとの山行。万年山は2回目だったが、お花畑は初めて。感動のミヤマキリシマが堪能できて、最高の一日だった。

ありがとうございます。リーダーの丹下さんはじめ、バスの運転をしていただいた堀内さん、皆さんお疲れさまでした。

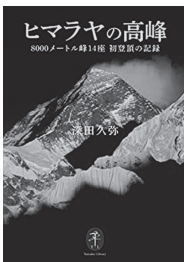
(清家智恵)



図書紹介

ヒマラヤの高峰
8000メートル峰14座初登
頂の記録

深田久弥著



2021年12月
山と溪谷社
A6判 352頁
1100円+税

深田久弥が雑誌や書籍に発表していたヒマラヤ8000m峰14座と、その初登頂に関する論考を集めて

編集したもの。深田には「ヒマラヤの高峰」をタイトルに持った著作が複数あるが、本書は、朝日新聞社刊の『深田久弥 山の文庫2 ヒマラヤの高峰』を底本として、一部は『ヒマラヤ登攀史』第2版に拠っている。

深田久弥といえば、百名山を思い浮かべるのが普通になってしまった感のある昨今だが、深田は熱烈なヒマラヤのファンであり研究家でもあった。自身もヒマラヤを直接経験するため現地を訪れてい

寄附金および助成金などの受入報告(7月まで)

寄附者など	受入金額など (単位千円)	寄附の目的、その他
柏木 和彦 様	150	山岳環境保全事業 寄付金
茂木 完治 会員	50	関西支部運営資金 寄付金
早田 道治 会員	30	岐阜支部50周年記念 行事寄付金
塚原 孝司 会員	20	岐阜支部50周年記念 行事寄付金
大門建設株式会社	5	第25回高頭祭に 関する越後支部活動 費寄附
弥彦山岳会 小林 頼雄	5	第25回高頭祭に 関する越後支部活動 費寄附
中谷 康司 会員	100	広島支部 アマ・ダブルラン登山 隊支援寄付金

る。深田が初めてヒマラヤの話を書いたのは1953年、奇しくもイギリス隊のエベレスト初登頂の直前のことだった。20世紀の50〜60年代は、50年のフランス隊によるアンナプルナを皮切りに、エベレスト、ナンガ・パルバット、K2と続く8000m峰初登頂に世界が沸いた時代で、日本も56年にマナスル登頂を成し遂げる。ヒマラヤ自体がいまだ国民には馴染みのないころだったが、初登頂のニュースは熱狂的に迎えられて「世界の屋根」に対する関心が一気に盛り上がった。こうしたヒマラヤ登山

史で最も輝かしい時代に「ヒマラヤに憑かれていたのは、私の幸福だった」と深田は述懐している。本書を読んで改めて気付かされるのは、この時期のヒマラヤ登山がどれほど困難だったかということだ。登頂ルートどころかアプローチさえも未開拓で、その困難さは想像を絶するものがあつた。極地法により何百名ものポーターを動員した大掛かりな登山は、いまでは古典的なスタイルになった。そうした初登頂の歴史を深田は丹念に資料をあさって調べ、その詳細さ膨大さは敬服に値する。その結果、このように一冊にまとまっ

た形で読めることは、ドキュメントとしても貴重だ。

公募登山でヒマラヤが一般の人にも手が届くようになった現代と比較すると、その落差には驚かざるを得ないが、費用の面でも莫大なものだった。国家事業の形で遂行され国からの資金提供も受けて、そこには国家同士の競争という意味もあつた。登り着いた頂上には国旗が掲げられるのが習わしとなる。そして証写真撮る。占領の証^{あかし}だったと言ってもいいのだろう。

あえて深田は、こうした風習に背を向けた「つむじ曲がり」の登山家もいたことを紹介していて、「趣味としてこうした態度が好きだ」と、ひと言さりげなく言い添えていることも読み落とすまい。このほかにも、土着的な山名へのこだわりやシェルパたちの献身ぶりを話題にし、あるいは一般の登山者も楽しめる「費用のからぬ方法」を提案したりするところなど、深田のいわば人間的な側面に触れるような記述として興味深い。それぞれのピークに壮大なドラマが展開されていたことを教えられるのだが、そこからは、登山が、

その社会を包む(時代の精神)を投影する物語を、山と人とは一つになって語り出していた消息が伝わってくる。その意味で、すでに本会報で紹介された『日本人とエベレスト』(山と溪谷社)を併せて読むことを勧めたい。初登頂から半世紀、エベレストにまつわる出来事の歴史を俯瞰し、初登以降のヒマラヤ登山の変遷がたどれる。その軌跡を通して、(時代の空気が変わるにつれて冒険のバラダイムがシフトしていった経緯が浮かび上がってくるだろう。

(飯田年穂)

村井昭夫／鶴山義晃著

新・雲のカタログ

「空がわかる全種類分類図鑑」



2022年3月
草思社
223頁×200mm
167図
2500円+税

「10種雲形」という言葉をご存じだろうか？ 無数にある雲を、世界気象機関が雲の形が共通する10個のグループに分けたもので、世界共通の雲の分類法だ。10種雲形

はさらに、「種」「変種」「部分的な特徴」「付随雲」などに分類され、合計で約100種にも及ぶ。

世界気象機関では、これらの雲について「国際雲図帳」(International Cloud Atlas)＝ICAで紹介しており、それに基づいて2011年に、村井昭夫氏と鶴山義晃氏の共著『雲のカタログ』が発刊されたが、2017年にICAが久しぶりに改訂されたのを機に、新しく生まれ変わったのが本書である。

本書の内容は、「まえがき」に書かれているように、「雲の分類図鑑」そのものである。一つ一つの雲に解説と写真数点が盛り込まれており、ぱらぱらとページをめくっていくだけでもわくわくしてくる。私は、日本山岳会の「山の天気ライブ授業」などで観天望氣(かんてんぼうき)の講義をすることが多いが、講義の中で雲のことを「空気の翻訳者」と説明する。空気が目に見えないので、私たちは空気の状態を知ることが難しいが、雲は、その目に見える空気はどういういう状態なのかを私たちに伝えてくれるからだ。

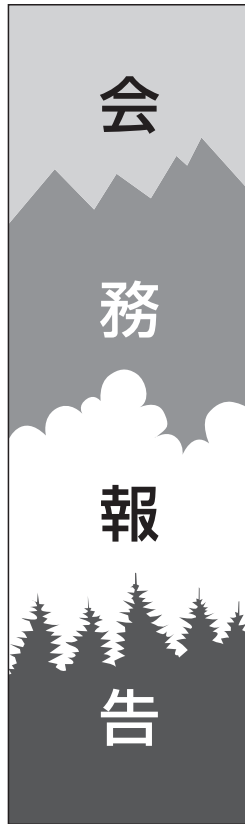
本書を読んでいると、雲が無数

の表現方法で、読者に訴え掛けることだろう。小学生のころ、動物や昆虫の図鑑を見てわくわくしたように、本書をめくると、雲にはこれだけたくさんの種類があり、それを一つ一つ解明していくような、空気の状態を理解していくような、そんな高揚感を感じるのはないだろうか。

雲を知ること、[「空気が読める」登山者に近付いていくことだ

ろう。本書は、図鑑としての性質が強く、雲に興味を持ったり、雲を愛する気持ちが芽生えていくことが期待できるが、併せて『山の観天望氣』(筆者ら著、ヤマケイ新書)などを読むことで、登山者の視点で、悪天の予兆となる雲の変化を学べば、安全登山にも役立つことだろう。

(猪熊隆之)



令和4年度第4回(7月度)理事会 議事録

日時 令和4年7月13(木) 19時00分

分

場所 集会室およびオンライン
(zoom)

【出席者】 古野会長、坂井・山本・橋本副会長、柏・南久松・萩原各常務理事、松原・松田・清水・飯田・久保田・川瀬・長島各理事、黒川・

佐野各監事

【欠席者】 平川理事

【オブザーバー】 節田会報編集人

【審議事項】

- 1・平成4年度支部助成金および新入会員報奨金の送付について承認した。南久松(賛成14、反対0)
- 2・監査法人との財務に関するの指導助言業務契約の継続について承認した。南久松(賛成14、反対0)

0)

3・グレート・ヒマラヤ・トラバース隊への寄附について承認した。飯田(賛成14、反対0)

4・ゴールドウィンからの寄附受入れ承認について承認した。飯田(賛成14、反対0)

5・日本ロングトレイル協会からの名義協力依頼について承認した。飯田(賛成14、反対0)

6・令和4年度晩餐会の開催を決定した。長島(賛成12、反対2)

7・事務局員の賞与について承認した。柏(賛成14、反対0)

8・令和4年前期海外登山助成申請の2件の審査結果を承認した。坂井(賛成14、反対0)

【協議事項】

なし

【報告事項】

- 1・正会員5名の入会を承認した旨、報告があった。(古野)
- 2・寄附金6件、30万円の受入れ報告があった。(南久松)
- 3・会員情報データのクラウド化推進について報告があった。(南久松)
- 4・内閣府立入検査による補正事

項と今後の対応について報告があった。(南久松)

5・ヒマラヤキャンプ会員外への寄附金、協賛金呼び掛けの開始報告があった。(飯田)

6・令和4年度の責任賠償保険の更新を行なったという報告があった。(長島)

7・実施している山岳祭と支部が保有する宿泊施設のアナケート結果の報告があった。(松田)

8・同好会「かつぱの会」の設立が承認された旨、報告があった。(柏)

9・自然保護委員会委員長の交代の報告があった。(飯田)

10・登山計画書の提出状況について報告があった。(川瀬)

11・「山」7月号の発行に関する報告があった。(節田)

ルーム日誌 7月

1日 高尾の森づくりの会

2日 山げらの会 山の自然学研究会

5日 スケッチクラブ

6日 資料映像委員会 山行委員会 山岳古道PT

7日 YOUTH CLUB 山岳地理クラブ フォトクラブ

12日 フォトクラブ

13日 理事会 資料映像委員会

14日 休山会 山想倶楽部

14日 九五会 スキークラブ

15日 自然保護委員会 図書委員

15日 会 山岳古道PT 二火会

16日 アルピニズムクラブ フォトクラブ

19日 沢登り同好会II

20日 つくも会 かつぱの会 フォトクラブ

21日 会報編集委員会 学生部

緑爽会

25日 資料映像委員会 青年部

26日 平日クラブ

28日 記念事業委員会 アルピニ

ズムクラブ 山遊会

29日 記念事業委員会

7月来室者 169名

会員異動

物故

近藤信行 (4433) 22・7・17

山下まり子 (14555) 22・7・21

退会

中原 剛 (12046) 越後

井野口千秋 (14276) 広島

多田友行 (15688) 神奈川

越智弘幸 (16496) 東海



インフォメーション

◆2022年フォーラム

「登山を楽しくする科学」Ⅻ

科学委員会

科学委員会のフォーラム「登山を楽しくする科学 Ⅻ」を開催します。

日時 10月2日(日) 13～17時(受付は12時30分から)

会場 立正大学品川キャンパス150周年記念館「ロータスホール」品川区大崎4-2-16(JR大崎駅北改札西口徒歩5分「山手通り口」からお入りください。

演題と講師

- 1・歩行ペースとコースタイムから考える安全登山の科学 鹿屋体育大学教授・山本正嘉氏
- 2・日本百名山「伊吹山」お花畑の不思議 森林インストラクター／樹木医・石井誠治氏

3・エベレスト登頂撮影はどのようになされたか 本会理事／元NHK報道カメラマン・清水義浩氏

申込み 氏名、住所、TELを記載し、kagaku@jac.or.jp または葉書 〒171-0003 東京都豊島区高田36-13-512 伊藤謙二まで

定員 先着200名(受講票は送付しません) 定員オーバーの場合のみ連絡します。

費用 500円(資料代)

問合せ先 伊藤謙二

(TEL) 090-8051-3589

◆紅葉の北八ヶ岳縦走

山行委員会

紅葉のシーズンに桜平から入って夏沢峠、天狗岳、中山峠、白駒池、縞枯山、蓼科山を巡ります。

日程 9月30日(金)～10月2日(日)

集合 30日(金) 9時20分、JR中

行程

中央線・茅野駅改札口

30日…茅野駅⇨桜平⇨夏沢鉦泉⇨オーレン小屋⇨夏沢峠⇨根石岳山荘⇨天狗岳⇨黒百合ヒュッテ(泊)

1日…黒百合ヒュッテ⇨中山峠⇨中山⇨高見石小屋⇨白駒池⇨麦草峠⇨茶臼山⇨雨池峠⇨縞枯山荘(泊)

2日…縞枯山荘⇨北横岳⇨亀甲池⇨天祥寺原⇨蓼科山荘⇨蓼科山⇨蓼科山登山口⇨親湯入口⇨蓼科温泉入浴⇨茅野駅(解散)

歩程 30日⇨約4時間35分

1日⇨約5時間50分

2日⇨約8時間5分

歩程

(健脚向き)

費用 3万3000円(山小屋代2泊・弁当代⇨1泊分・タクシー代・保険料ほか)

定員 先着7名まで

申込み 9月10日(土)までに、三井賢治宛

(TEL) 090-7402-6480

santo@jac.or.jp

蓼科温泉入浴もあり。

*傷害保険加入のため、性別・生年月日をお知らせください。また、参加者名簿作成のため、会

員番号、住所、緊急連絡先(続柄)、電話番号、携帯電話番号などもお知らせください。

◆第29回山岳写真展「心に映る山々」

アルパインフォトクラブ

毎年1回、会員の写真を展示する写真展を開催していますが、今年も国内外の山岳写真40点を全紙で展示します。

会期 9月21日(水)～25日(日)(10時～18時、最終日16時まで)

会場 東京都千代田区一番町 日本カメラ博物館(JCII)

ビル) 地下一階(JCII
クラブ25)

TEL 03-3261-0300

地下鉄半蔵門線半蔵門駅4

番出入り口から徒歩1分

(例年と場所が違います)。

問合せ 道健一

✉ michiken@h9.dion.ne.jp

川嶋新太郎

TEL 090-9369-2345

◆第28回山岳写真展「心に映る山々」高尾巡回展

アルパインフォトクラブ

当クラブでは毎年、写真展を開催し、会員が撮影した国内外の山岳写真40点を全紙で展示しています。28回東京展はすでに終了しましたし、29回東京展(前項記事参照)も先行して9月に開催されましたが、28回展の巡回展として高尾展が10月に開催されます。

会期 10月8日(土)~10日(月)(8..

00~17:00)

会場 高尾599ミュージアム

アクセス 京王電鉄(京王線 高尾

山口下車徒歩4分、高尾山

ケーブル駅近く

TEL 042-665-6688

問合せ 道健一

✉ michiken@h9.dion.ne.jp
川嶋新太郎

TEL 090-9369-2345

◆白神山地ブナ林再生事業と自然観察会

青森支部

ブナ林を再生するための除伐や植樹などの作業、および原生ブナ林(クマゲラの森)観察会を行なう。寝袋必携。テントはこちらで用意可。食事希望者は実費で用意可(小雨決行、ただし荒天、コロナ感染などでの日程変更、中止あり)

日程 9月17日(土)~18日(日)

集合 17日8時 JR弘前駅城東

口、および8時45分ピーチ

にしめや、および10時30分

奥赤石林道ゲート

解散 18日15時奥赤石林道ゲート、

17時30分弘前駅送迎可

経費 500円(傷害保険料込み、

当日徴収)

定員 30名

申込み ハガキかFAX (FAX 01

7-2144-7237) また

はメールで福土和基宛(〒

036-8154 弘前市

豊原2-13-4)

✉ f.kazunoto@gmail.com

へ9月7日までに

◆仁科三湖の成り立ち

市立大町山岳博物館企画展

北アルプスの麓に並ぶ仁科三湖

誕生ストーリーを解き明かします。

期日 7月23日~10月16日 午前

9時~午後5時(7・8月

は無休。9・10月は月曜日

と祝日の翌日休館 入館は

午後4時30分まで)

観覧料 大人450円、高校生3

50円 小・中学生200

円(常設展と共通)

◆千葉潔展

槍・穂高・上高地を描く

1996年から続く個展で、今

回で22回を迎える。

会期 9月27日(火)~10月30日(日)

会場 上高地温泉ホテル「ギャラ

リー きそう」

◆宇田川哲夫写真展

「ヒマラヤの高峰と山の子供たち」

会場と開催期日

*京都AMS写真館 9月16日(金)

~21日(水)

*富士フィルムフォトサロン札

幌 10月21日(金)~11月2日(木)

◆編集後記◆

●7月下旬は白馬大池から白馬三山の縦走を楽しみました。小蓮華山の稜線で知り合いのガイドとばったり。2人のお客さん連れて、某大手酒類・飲料メーカーS社の工場長とスタッフの方でした。S社は最近、餓鬼岳東麓の乳川畔に飲料水工場を新設したとのこと、南アルプスでも成功している、今度は「天然水北アルプス」として大々的に売り出すのでしょうか。

●そこで、「中央アルプスも花崗岩の美しい谷が多く、水がおいしいですよ」とアドバイスしておきました。そうすると3つのアルプスの水を飲み比べる「日本アルプス名水コンペ」が始まりそうですが、結果は容易に想像できますね、いずれも甲乙付けがたく、水入りのとなるでしょう。(節田重節)

日本山岳会会報 山 927号

2022年(令和4年)8月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 古野 淳
編集人 節田重節
Eメール: jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社